

平成29年度 全国盲学校弁論大会 広島大会

優秀賞〔中国・四国地区代表〕

「伝えたいこと」

愛媛県立松山盲学校高等部普通科2年 松浦 佑美（17）

私を産んでくれた両親に、伝えたいことがあります。私は今まで、自分の気持ちを伝えることが苦手でした。でもこれからは伝えていきたいです。だからまず、私を産み育ててくれている両親に私の思いを届けたいと思います。

16年前、私が生まれた日、家族全員がとても喜んでくれたそうです。でもその時は、3カ月後にとても悲しいことを知ることになるとは夢にも思っていなかったと思います。私の目に障がいがあることが分かった時、どう育てたらいいんだろうと不安でいっぱいになった母は、祖母にこう言われたそうです。「どんどん佑美ちゃんを外に出してあげなはいよ。障がいがあってもなくても佑美ちゃんには変わりないんやから」。その言葉のおかげか、母は私をいろいろな場所に連れて行ってきて、たくさんのことを教えてくれました。

松山盲学校（中学部）に入学して、友達もでき、もう自分は一人ではないと感じられるようになりました。部活にも入り、充実した生活を送る中で少し積極的な性格にもなれました。しかし、2年前、急に視野が狭くなって病院を受診した時、主治医の先生から言われた言葉で頭の中が真っ白になりました。私のように幼い頃から視野が狭く、色の判別が難しい網膜色素変性症の人は、多くが20歳くらいですべての視力を失ってしまう、そして私もそうなるだろうと言われたのです。その時の私は、ショックというよりも驚きの方が強く、現実を直視できませんでした。

中3の秋、私の心の中にある時限爆弾のようなストレスのかたまりが破裂しました。目の痛みがひどくなったり、夜十分に眠ることができなくなったりして、すべてが嫌になってしまったからです。そのことに母が気づいてくれて、「思っていることを言ってほしい」と言ってくれました。胸が苦しくて言葉にならなかったけれど、母が勇気を出して言ってくれたんだから、私も「伝えたい」と思い泣きながら話しました。あまり涙を見せない母も泣きながら、「おかあさんが上手に産んであげられなかったけん、ごめんね」と言っていました。その時初めて、母が自分のことを責めていることに気づき、はっとしました。私は両親を悲しませるためにここにいるのか、いやそうではない。私は家族を笑顔にさせるためにここにいるんだ。だから自分の思っていることをはっきりと伝えたい。出会ってくれてありがとう。産んでくれてありがとう、と。

そして、父と母にお願いがあります。それは、もう自分のことを責めないでほしいということです。まだ目の状態を完全に受け入れられてはいないけれど、今は少しずつ、障がいがあってもよかったと思えるようになっていきます。だってこれになかったら、みんなと出会うことができなかつたかもしれないし、大好きな卓球もできなかつたかもしれません。もし神様がいたら、感謝しなければいけないとさえ思っています。神様は私を母のお腹に宿す時に、目に忘れ物をした、この目のおかげで私は今ここにいるのだから。

今、私にはかなえない目標があります。それは母のように、嫌なことから逃げずに、誰にでも優しく、自分に厳しい立派な大人になることです。そのためには自分を見つめ、受け入れなければいけないと思っています。ゆっくりでもいいから、いつの日か自分のことが好きだと堂々と言えるようになりたい。

今年の春休み、私は家族と一緒に、大きな桜の木を見ました。その木の下で母は私にこう言いました。「待っているだけではもうだめ、してほしいことは口に出して伝えなけん」。人に何かを伝えることはとても難しいことです。でも言葉に出して伝えなければ相手も私も理解し合うことはできません。だから私は勇気を出して伝えられるようになりたいと思っています。

桜は寒さを乗り越えて、きれいなピンク色の花を咲かせます。葉桜になり、その葉も散り、枝一つになっても桜は根を張ってしっかりと生きています。そしてまた、たくさんのきれいな花を咲かせるのです。私は桜のように、そして母のように、優しさと勇気を持って毎日を過ごしたい。失敗してもいい。進まない日々が変わることはないのだから。そして何度でも、私だけの花を咲かせていきたい。

私が松山盲学校に赴任した1年目の大会の弁論です。校内弁論大会は出張と重なったために聴くことができなかつたのですが、最優秀賞を受賞した香川県立盲学校での中国・四国地区大会と広島中央特別支援学校での全国大会は、リアルタイムで視聴することができました。

香川盲学校では、客席の老婦人から「神様が忘れ物した私の目でもがんばるよ自分を变えて」という歌が添えられたメッセージが会場校の校長に届けられたと後で伺いました。聴衆を惹きつけたんですね。

松浦さんは、その年（平成29年度）の愛顔つなぐえひめ大会に視覚障害者卓球（サウンドテーブルテニス：STT）の愛媛県代表として出場し、見事銀メダルに輝きました。御両親、お姉さん、御親族の愛情を受けて、文武両道で活躍しました。

今年度20歳になる松浦さんは、現在、松山盲学校高等部保健医療科の2年生に在学し、あん摩・マッサージ指圧師の国家試験合格を目指して勉学に励んでいます。もちろん、STTにも熱心に取り組んでいます。